

夢のかけはし

私が絵を描くようになったのは、家庭環境が大きく影響しています。4人姉妹の末っ子として生まれ、姉と年齢が離れていたこともあり1人遊びが多く、漫画を読んだり、絵を描いたりすることが好きでした。思い通りに描けたときや、描いたものを褒められることは小さなころからの喜びでした。

進学した教育学部美術専修に在籍中はひたすら作品の制作を行い、卒業後は念願かなって教師の道に進むことができました。そして、鹿屋高校に赴任した平成30年。南日本美術展に出展した作品「だれもわからないI」で吉井賞を受賞し、パリに留学させていただきました。この作品は、自分に対するイメージが自分と他人与人とで異なるという矛盾を羊と水滴で表現したものです。このテーマは雨の日に車を運転していたときに思いついたものです。

鹿屋高校美術教諭

はんじょう えみ さん 繁昌 絵美 さん

この留学を通して一番感じたことは、家族はもちろん応援してくれる人の大切さです。留学は自分を見つめ直すきっかけになりました。変わっていくうえで大きくは変わらない自分自身に気づき、「絵を描くことを通じて自分を理解する」という大きなテーマは今後も変わらないと感じました。しかし、作風や技巧面において、どのように変わることができるのか自分でも楽しみみです。鹿児島県では素晴らしい賞をいただくことができましたので、今後はさらに精進するために全国の展覧会への出展を考えています。また、本業である後進の育成にもさらに力を入れていきたいです。



【右】吉井賞を受賞した作品「だれもわからないI」。
【左】鹿屋高校では美術教諭としての授業に加え、美術部の顧問として部員8人の指導を行っている。

絵を通して
自分を理解する

鹿屋市出身。鹿屋女子高校を経て、鹿児島大学教育学部に進学して教師の道に。現在、12月22日（火）から27日（日）まで鹿児島市立美術館で開催予定の自身の滞欧作品展に向けて、多くの作品を制作中。